

【学力向上フロンティアスクール中間報告書様式】(小学校用)

| | |
|-------|------|
| 都道府県名 | 神奈川県 |
|-------|------|

学校の概要(平成15年4月現在)

| | | | | | | | | | |
|-----|------------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 横須賀市立陽光小学校 | | | | | | | | |
| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 6 | 8 |
| 児童数 | 16 | 33 | 29 | 27 | 28 | 25 | 0 | 159 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|---|
| <p>わかるよろこび、考える楽しさのある授業づくり ～算数的活動を通して～</p> |
|---|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|--|
| <p>実施学年・・・全学年 教科・・・・算数 選択理由・・・児童の理解の状況に個人差が出やすい教科であり、算数嫌いの傾向が見られていた。そこで、基礎基本の定着をはかり、学習に自信を持つことで、算数がわかるようになり、楽しく勉強できるようになると考えた。</p> |
|--|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ わかるよろこび、考える楽しさのある授業づくり～算数的活動を通して～ 研究の見通し わかるよろこびのある授業を「友達との学びあい」があり、「新しいこと」「前年に学習したことと同じであること」や、「しくみ・根拠についてよりよく理解できる場面があるもの」ととらえ、考える楽しさのある授業を「課題に対して自分なりの考えで答えを見つける」、「様々な解き方を考える」、「少し問題を広げて、発展的に活動する」、「ものを使って、活動しながら考える」、「友達と意見交換しながら考</p> |
|--------|---|

える」などの場面があるものととらえた。学習活動を作業・体験的活動、少し問題を広げて発展的に活動したり、多様な解き方を考えたりする等の活動を積極的に取り入れることによって、本校が目指す授業の具現化を図る。

研究の内容・方法

「わかるよろこび、考える楽しさのある授業」の改善・工夫に関する研究を行う。

学校教育目標との関連性

児童の実態把握、児童・保護者・教員の願いの把握

研究主題の設定

研究授業・授業研究の実施

教材研究

事例研究文献研究、識者からの助言などを通して授業改善を行う。

| | |
|-------|---|
| 平成16年 | <p>テーマ わかるよろこび、考える楽しさのある授業づくり～算数的活動を通して～ 研究の見通し 平成15年度の研究を検証しながら、授業の改善・工夫をはかることで、児童の基礎基本の定着になり、その向上も図られると考える。 研究の内容・方法 15年度に同じ。</p> |
|-------|---|

(3) 研究推進体制

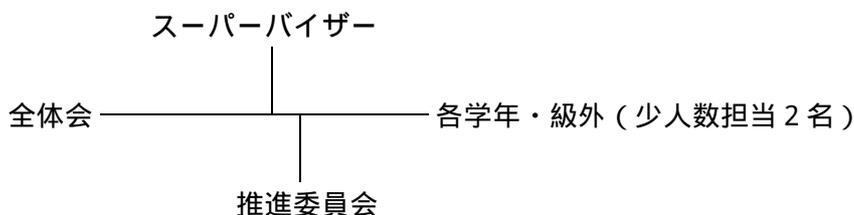
研究推進委員会を設置し、定期的にあるいは、必要に応じて委員会を開いて研究の進め方を検討する。

研究推進委員会は、校長・教頭・低、中、高のブロックより各1名と級外の6名とする。

研究全体会は全教師で構成し、定期的な会合を持ち、研究を進めていく。

必要に応じて外部講師を招聘する。

<組織図>



全体会・・・研究の方向性や内容について、研究推進委員会で作成した原案を元に、研究討議して職員の共通理解をはかる。

推進委員会・・・校長・教頭・各ブロックの代表、級外(少人数担当)で構成する。

研究の原案を作成し、全体会や学年に提案する。日程を調整し、研

究のまとめをする。

各学年・級外・・・日々の授業における研究の実践をはかる。毎週木曜日にブロック会を設定し、少人数担当との打ち合わせや教材研究を行う。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本校は今年度からフロンティアスクールの指定を受けて研究を始めたため、まだまだ手探りの状態である。基礎・基本の学力を高めることで、子どもに意欲が起き、わかるよろこび・考える楽しさが生まれ、算数の力が高まると想定し、現在まで取り組んできた。その結果、算数に興味を持ち、算数が好きだという児童が大変多くなった。成績も良くなったと思われる。また、お互いに学びあう授業を心がけてきたので、ともに向上しようとする力が付いている。

2. 今後の課題

基礎・基本の学力の高まりを明確にしていないので、今後はそれを、学力テスト等を通して、見える形にしていきたい。少人数指導を活用し、今年度の学習活動を元に、さらに指導の充実をはかりたい。

学力等把握のための学校としての取組

昨年度末に学力テストを行っているので、今年度末にも同じ学力テストを行い、学力向上がはかられているかどうか把握したい。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

講師を招いたときには近隣校にお知らせを配布し、参加を呼びかけた。

2004年1月28日、本校において2年・5年の公開授業を行い、横須賀市内の小中学校にお知らせを配布し、今までの研究成果を発表する。

研究紀要を作成し、横須賀市内の小中学校に配布する。

次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 √ 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 √ 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 √ 少人数指導 T.T.による授業
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 √ 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 √ 有 無